

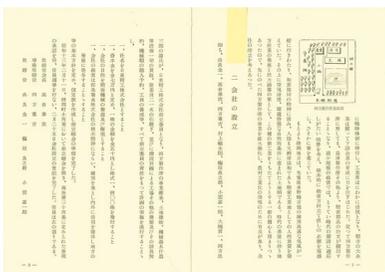
日東精工の歴史の1ページ目、綾部の老舗料理旅館「小西屋」からはじまる

綾部市の老舗料理旅館「小西屋」が今年の7月いっぱいまで閉館されることを知り、7月28日に当社役員懇親会を同所で開き、当社とのつながり、長きにわたってお世話になったことへの感謝をお伝えしました。

日東精工の創業の経緯をあらためてご説明すると、当社が本社をおく綾部市には養蚕のまちであることを背景に郡是（現グンゼ(株) 上場プライム企業）ができ、女性の雇用が創出されました。次は男性の雇用機会を増やすべく、昭和13年に商工会議所や銀行、信用組合など、地元の有志により設立されたのが当社の起源です。

当社の前身は関東大震災を契機に故郷あやべに帰郷した服部時計店（現セイコー）に勤めていた四方重吉が、時計修理などを請け負う四方時計工作所をはじめたことに端を発します。戦時体制に入り工業界は飛躍的に発展。大手企業から精密部品加工のニーズが急増。これに応じて、現在当社が本社をおく井倉に工場を建設し、四方製作所としました。しかし小規模な体制では需要の拡大に対応することがままならず、事業を拡大強化する必要が生まれました。そこで地元有力者のご助言もあって、この四方製作所の事業を継承し、新たに「日東精工」が設立される運びとなったのです。

当社の『25年史』の会社設立の項には、次のように記載されています。



7月28日に小西屋さん前で当社役員がおかみさんを囲んで記念撮影

即ち、由良金一、高倉泰次、四方重吉、村上頼太郎、梅垣良之助、小雲嘉一郎、大槻貫一、四方忠三郎の諸氏が、日東精工株式会社創立委員となり、四方事業所（※四方製作所）の事業継承、土地建物、機械機具什器等設備一切の買収、従業員二名の引継ぎ、並びに増設計画による工場その他の建築及びその請負契約、機械類の購入予約、工員の養成等、すべて創立委員の責任をもって計画の実施を進行することとし、(中略) 基本方針を定め仮定款を作成し創立総会の準備を完了した。

昭和十三年二月十一日、綾部町小西屋において創立総会を開き、商法第三十四条に定められた事項の承認を得、役員選挙を行い、二月二十五日会社設立の登記を完了した（後略）。

ここで記載されている「小西屋」は、伝統を誇る老舗の料理旅館であり、元首相の芦田均をはじめ、各界の著名人が利用した由緒ある地です。創立総会がこの由緒ある老舗旅館で開かれたわけで、当社では創業理念を大切に継承していくという思いから、その後も毎年、株主総会が終わった後には、

この小西屋さんで役員懇親会を開いてきました。「時代を遡れば、日東精工さんも経営が厳しかったときもあったかと存じますのに、毎年、必ず会を設けてくださいました。そのうえ歴代の役員の方々には、私的な会合などにもご利用いただく機会が多かったです。こちらにはいろいろなお客様がお見えになりますが、日東さんの会合は乱れることなく、さすが立派な企業さんだと常々感心していました。今般、閉業する前に会合を開いていただき、その席で荒賀社長に日東精工創立の経緯

をお話いただきました。荒賀社長うちにはじめて来られたときは記録撮影をするカメラマン役としてでしたが、社長さんとなられ、今回の会の折にも本当に温かいお言葉を賜わり、日東精工さんは人や地域を大事にされる会社だとあらためて実感しました」(小西屋のおかみ・森田昌子さん)。

当社創立と関係ある料理旅館さんの閉館はとても残念ですが、これまでのご縁に心から感謝を申し上げ、当社ではこれからも人と人とのつながり、ご縁を大切に、地域を大事にしていきたいと思います。

LECTURE

日東精工グループはさまざまな分野で先進的な取り組みをしていることもあり、講演やセミナーへの講師依頼を多数受けます。これらは日東精工のブランド価値向上につながるものとして、丁寧に対応しています。

京都工芸繊維大学内で 分析計測技術の 応用事例などをご紹介

7月28日、日東精工アナリティック(株)の西日本営業所長 田嶋剛志が京都工芸繊維大学で講演を行いました。同社は三菱ケミカルグループにルーツをもち、2020年から日東精工グループに仲間入りした分析機器・計測機器の会社です。今般、約30名の化学系大学生と先生方を前に、カールフィッシャー水分計の測定原理を解説するとともに、他の実験で応用可能な水分測定のポイントなどを紹介。また、産業分野における具体的な応用事例を通して、同社の企業理念〈分析計測技術を通じて地球環境を守り、豊かな社会づくりに貢献する〉もアピールしました。



京都府の中堅教職員を対象に マネジメント研修の 講師を務める

8月4日、5日の二日間、教職経験7～15年の主任(教諭、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員)約180名を対象に、「中堅教諭資質向上研修会」が京都府総合教育センター主催でオンラインにより開催され、当社代表取締役社長兼COOの荒賀誠がその講師を務めました。学校の先生も「マネジメント」の視点を学び、それを教育活動の充実と改善に生かすという試みで、当日は「人生のねじを巻く77の教え～人づくりから始めるモノづくり～」と題し、当社の取り組みをベースに組織の活性化や危機管理マネジメントなどをレクチャーいたしました。



京都工業会の若手・ 中堅経営者を前に 「絆経営」の大切さを講演

京都工業会は京都府内のモノづくりの会社300社以上が加盟する団体で、当社代表取締役会長兼CEOの材木正己が副会長を務めています。その京都工業会の白鷺クラブ(若手・中堅経営者約20名)が、8月8日、当社を訪問されました。本社ならびに工場を視察される前に、まず当社会長の材木正己が講演。「絆経営で目指す『地域創生』」をテーマに、当社がなぜ地方のあやべに本社をおき続けているのか。そして絆経営で持続経営を目指していることや、「人財育成」こそが「地域貢献」であり「地域創生」であることなどを紹介し、また経営者としての心構えなどをお話させていただきました。



「きょうとみらい博」で 子供たちがねじづくり疑似体験

8月9日に京都市勧業館「みやこめっせ」で「きょうとみらい博」が開催されました。小学生～高校生とその家族を対象に、京都の企業や団体のさまざまなブースを通して、〈仕事〉や〈社会〉に触れてもらう夏休みイベントです。

京都の企業・団体、22社が出展するなかで、当社ブースではねじを製造する工程を体験する「ねじづくり体験」や、時計などに使用される直径0.6mmの小さなねじを手で締める「極小ねじ締め体験」、容器に入っているねじの本数や1,000本以上のねじの山から種類の違うねじを探し出す「ねじリンピック」などを開催。多くの来場者にいろんな形で「ねじ」に触れていただきました。



ねじづくり体験の参加者からは「ありがとうカード」をいただき、「ねじづくりが楽しかった」「優しく教えてくれてありがとうございました」など、嬉しいコメントを多数いただきました

オンラインで2025年12月期 第2四半期決算説明会を開催

8月27日、みずほインベスター・リレーションズ(株)にマネジメントいただき、当社2025年12月期第2四半期決算説明会を「オンライン説明会」



形式にて実施。日東精工代表取締役社長兼COOの荒賀誠が決算の概要を解説いたしました。

今期増収増益の要因となった「インド子会社化」や「ゲーム機向けやデータセンター向けねじ製品」また、中期経営計画「Mission G-second」の進捗状況、PFAS関連など環境ビジネスの展開などについて解説。またこのオンライン説明会終了後は希望に応じて、当社の荒賀が個別に対面でご説明、お話を伺う機会も設けさせていただきました。当社ではこういった説明会を随時開催しながら、多くの関係者の方々へ当社事業のことを深くご理解いただくことを願い、また経営の透明性を担保しています。



第2四半期決算説明会資料はQRコードからダウンロードいただけます

お祭りへさまざまな形で協賛 翌日の清掃も忘れません!

当社が本社をおくあやべの夏祭り「水無月祭り」での打ち上げ花火などへの協賛や「あやべ良さ来い」(よさこい踊り)へのチーム参加などは、前号の本欄で、すでに紹介しましたが、お祭りを翌年、そして次世代につなげていくためには、後片付けも大切なことです。



毎年、祭りの翌早朝に「クリーン水無月」が開催され、日東精工グループ社員も率先して参加しています。今年も7月27日に実施され、日東精工ならびに日東公進の従業員61名が、花火会場として賑わった由良川土手沿いの清掃作業に従事しました。

地元あやべでの愛されキャラ 「ねじとくん」、満10歳!

当社の「ねじとくん」と綾部市の「まゆピー」、ふたりのマスコットキャラクターのバトンタッチ、〈つなげる大切さ〉を描いた「飲料自動販売機」が、日東精工アリーナ(市民センター)に置かれていて人気です。「ねじとくん」が誕生したのは2015年で、今年10歳になりました。「ねじとくん」の新しいバージョンのLINEスタンプも好評で、これからもXやインスタグラム、あるいはFacebookなどでも、当社の事業やイベント、製品のナビゲーターとして露出を増やしていければと考えています。応援ください!



当社のSNSはそれぞれQRコードから

諸刃の剣

代表取締役社長

荒賀誠

宝

石としても人気の鉱物「翡翠」から新種の鉱物が発見され「アマテラス石」と名付けられたことが話題になり、そのニュースで「翡翠」が日本の「国石」に選定されていることを知りました。「国の○」が少し気になり調べてみると、「国鳥」はなんだかご存じ？雉きです。昔話の「桃太郎」にも登場しますし、旧1万円札には雉が描かれています。「国花」は桜と菊とされています。皇室の御紋は菊の花ですし、日本国パスポートにも菊が描かれています。そのほか、国技、国魚、国蝶など、ネットなどで少し調べるだけでいろいろな気づきが生まれます。そもそも「アマテラス石」から

は天照大神アマテラスオホミカミ、伊勢神宮が思い浮かべられ、あやべの近くには元伊勢神社（内宮）があり、すぐそばの遙拝所は日本三大ピラミッドと呼ばれるパワースポット……という具合に、ひとつのニュースから発想を広げて、自分の身近なものに結び付けることもできるわけです。

ある職人さんが「最初からいい道具というものは無い。使いこなしていくうちに手になじんでどんどんいい道具になっていく」とおっしゃっていました。インターネットは諸刃の剣。自分の都合のいい情報だけを取り出し偏向を生む危うさもありますが、自分を高めていく道具として上手に活用していきたいものです。

※諸刃の剣（もろはのつるぎ）。役に立つけれど、害を与えることもある。リスクもあるということ

「幸せ」を見つけるヒント ——— 9月

小さなまちで、まずはチャレンジ！

保育士をやめて長年の夢だった雑貨店を営んでいる若い女性に話を聞いたことがあります。じつはお店だけでなく、いまはまだ午前中に他所でアルバイトをして足りない分を埋めているそうですが、自分がやりたいことができている喜びを感じている。そして小さなカフェを併設し、そこで語学やアートなどのミニ教室を開いていることもあり、新しいコミュニティが生まれているとのこと。

これは、じつは街中でも家賃が安い田舎・あやべだから可能なのかもしれません。なにかをはじめ

うとしたとき、大都会ならばやはりそれなりの資金力が必要ですが、田舎なら小さなリスクではじめられます。山崎善也綾部市長が「昔は『都会へ出かけて行ってひと旗上げる』が一般的だったけれど、今は『田舎に戻って、田舎に残って、あるいは田舎に移り住んで、ひと旗上げる』時代」とおっしゃっていたことがありました。街中には席数7ほど、ワンオペの小さな中華のお店も生まれています。まさに視座を変えるおもしろさですね。

現在、綾部商工会議所が所有する飲食店のテナントが一つ空いています。歴史ある場所、立地がいいので、ご興味のある方はご検討ください。

日東精工代表取締役会長 材木正己
綾部商工会議所会頭

